

科目名	現代の国語	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース 特進	
目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	言葉の特徴や役割，表現の特色を理解した上で語句や漢字の知識を増やし，文章の中の情報の関係について理解を深めることが出来る。	論理的な文章や実用的な文章を目的や場に応じて適切に読み，資料を引用しながら自分の意見や考えを表現することが出来る。	学習した内容を進んで言葉や文章に表現し，コミュニケーションに活用しようとする。言語文化への関心を深め，向上を図る。
	A わかる	言葉の特徴や役割，表現の特色を理解した上で語句や漢字の知識を増やし，文章の中の情報の関係について考えることが出来る。	論理的な文章や実用的な文章を目的や場に応じて読み，資料を引用しながら自分の意見や考えを持つことが出来る。	学習した内容を進んで言葉や文章に表現し，コミュニケーションに活用しようとする。言語文化への関心を深める。
	B できる	言葉の特徴や役割，表現の特色を理解した上で語句や漢字の知識を増やすことが出来る。	論理的な文章や実用的な文章を読み，自分の意見や考えを持つことが出来る。	学習した内容を進んで言葉や文章に表現しようとする。言語文化への関心を持つ。
	C する	言葉の特徴や役割，表現の特色を理解した上で語句や漢字の知識を増やそうとしている。	論理的な文章や実用的な文章を正しく読むことが出来る。	授業を受ける準備ができている（教材，服装）。学習活動に参加し，課題に取り組むことができる。
評価方法		授業時の観察，定期考査，課題確認テスト（小テスト），漢字テスト	授業時の観察，定期考査，課題確認テスト（小テスト）課題レポートなど	授業時の観察，定期考査

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	(現代文)『わからないぐらいがちょうどいい』『環境世界』『サイボーグとクローン人間』『人類学から見た言語』 (古文)『宇治拾遺物語』『竹取物語』『徒然草』 (漢文)『漁夫の利』『矛盾』『狐借虎威』『朝三暮四』
2 学期	(現代文)『経済の論理／環境の倫理』『レオノフの帽子屋』『食の履歴書』，実用的な文章 (古文)『伊勢物語』『枕草子』『土佐日記』 (漢文)『管鮑之交』『先従隗始』『鶏口牛後』
3 学期	(現代文)『AIの判断』『「私」が「主体」であるために』『生物多様性と科学』，現代の短歌十首/現代の俳句十句 (古文)『平家物語』『おくのほそ道』 (漢文)漢詩9編，『論語』

何で学ぶか(教材)

桐原書店『探究 現代の国語』

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義，グループワーク，ペアワーク，課題

科目名	言語文化	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進
目標	言語による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯に渡って読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。
	A わかる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を理解するとともに、我が国の言語文化に対する理解する。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力をつけ、他者との関わりの中で伝え合う力をつけ、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとする。	言葉が持つ価値への認識を理解するとともに、生涯に渡って読書に親しみ、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。
	B できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けようとするとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとする。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力をつけようとし、他者との関わりの中で伝え合う力をつけようとし、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとする。	言葉が持つ価値への認識を理解しようとするとともに、生涯に渡って読書に親しみ、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。
	C する	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けようとするとともに、我が国の言語文化に対する理解しようとする。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力をつけようとし、他者との関わりの中で伝え合う力をつけようとする。	生涯に渡って読書に親しみ、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。
評価方法		考查，小テスト	考查，小テスト	授業内

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	現代文：羅生門 古文：宇治拾遺物語 漢文：故事成語
2 学期	現代文：サラバ！，城の崎にて 古文：徒然草，伊勢物語 漢文：史伝
3 学期	現代文：山月記 古文：竹取物語，枕草子 漢文：漢詩

何で学ぶか(教材)

言語文化(数研出版) 副教材 教科担任作成資料

どのように学ぶか(授業方法など)

講義式授業 アクティブラーニング オンライン授業

科目名	数学Ⅰ	授業時数	週 3 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース 特進	
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 公式や考え方を応用問題へ活用できる。	問題の意味が理解でき，問題間の繋がりを部分的にでも体系的に捉えることができる。	粘り強く考え数学を活用し，問題解決の過程を振り返り考察し，評価・改善しようとすることができる。
	A わかる 習った問題に対し，計算やグラフでの表現を行い問題を解くことができる。	事象を論理的に考察し，問題を解決できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題を解決できる。
	B できる 例題を見ながら，問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い，過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 簡単な計算や，目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査 ・確認テスト ・小テスト	・授業 ・定期考査 ・提出物 ・小テスト	・授業 ・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	数と式 実数 1次不等式 集合と命題
2 学期	2次関数とグラフ 2次関数の値の変化 2次方程式と2次不等式 三角比
3 学期	三角形への応用 データの分析

何で学ぶか(教材)

数研出版『新編 数学Ⅰ』 数研出版『新課程 3TRIAL数学Ⅰ+A』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 タブレット教材 スタディサプリ (オンライン授業)
--

科目名	数学A	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース 特進	
目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成、さらに普段の生活に帰着させることを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け，別解の考察，条件の変更，異なる表現の工夫など，多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り，評価・改善しようとするとともに，数学のよさを認識し，味わうことができる。
	A わかる 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的，かつ統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋を，よりよい解決を求めて，粘り強く考え続けることができる。
	B できる 問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し，適切な用語・記号を使い，解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する 簡単な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し，適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・定期考査 ・確認テスト	・定期考査 ・提出物の状況 ・確認テスト	・授業態度 ・提出物の状況 ・グループ学習の活動

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第1章 場合の数と確率
2 学期	第2章 図形の性質 第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数まで
3 学期	第3章 整数の性質 第2節 ユークリッドの互除法から

何で学ぶか(教材)

数研出版『新編 数学A』 数研出版『新課程 3TRIAL数学Ⅰ+A』 補助プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習 タブレット教材 定理の内容や問題の解き方を自分の言葉で説明できるようにさせる。
--

科目名	歴史総合	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	
目標	近現代の歴史の変化について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現在とのつながりなどに着目して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える	近現代の歴史の諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しようとしている。	近現代の歴史に関わる事象の意味や意義、特色などに着目して、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価 A わかる	近現代の歴史の諸事象について、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題について理解し、説明できる。	近現代の歴史に関わる事象の意味や意義、特色などを、丁寧にワークシート等に表現できる。	自分自身の力でわからないところを、教科書などで読み調べ、理解することができる。
基準 B できる	近現代の歴史の諸事象について、教科書の内容を理解しようとしている。	授業の板書内容等を、工夫して考えながらノートにまとめている。	わからないところを自ら人に聞いたり、他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
基準 C する	教師の話を傾聴し、近現代の歴史の諸事象を理解しようとしている。	教師の発問に対し、自分の意見をまとめ、端的に表現しようとしている。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・定期考査 ・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	「近代化と私たち」
2 学 期	「国際秩序の変化や大衆化と私たち」
3 学 期	「グローバル化と私たち」

何で学ぶか(教材)

『明解 歴史総合』（帝国書院）
『明解 歴史総合ノート』（帝国書院）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

調べ学習・グループ学習

タブレット教材

科目名	科学と人間生活	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース 特進	
目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解することにより、科学に対する興味・関心を高める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準 S 使える A わかる B できる C する	生活から課題を発見し、考察することができる。	現象を論理的、かつ統合的・発展的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	任意提出物を確実に提出する。 グループ活動において、主体的に役割を果たす。
	身の回りの現象を的確に捉え、適切な知識を用いて説明することができる。	1つ1つの考え方を論理的にかつ秩序をもって解説することができる。	課題やワーク等を期限内に提出する。 任意提出物を積極的に提出する。 授業中に積極的に発言する。
	基本的な概念・知識が概ね身についている。	図表やグラフ、実験・観察データから分かることを指摘できる。	課題やワーク等の提出物を遅れてでも提出する。 グループ活動に意欲的に参加する。
	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	教材等の準備ができている。 私語や居眠り等をしない。 ノートやワークをきちんと書いている。
評価方法	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	1 編 生命の科学
2 学期	2 編 物質の科学 3 編 光や熱の科学
3 学期	4 編 宇宙や地球の科学

何で学ぶか(教材)

教科書（東京書籍 科人(701)
ワーク（東京書籍 ニューサポート）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習

科目名		英語コミュニケーション I	授業時数	週 3 単位	1 学年
			コース	スポーツ科学コース 特進クラス	
目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 S 使える A わかる B できる C する	身近な話題に関する記事，レポート，資料の概要や要点を理解し，必要な情報を読み取り，要点を理解することができる。	関心のある分野の話題について，英語を用いて具体的に説明したり，意見を述べるができる。	英語を活用し，自ら様々なことを英語を用いて表現しようすることができる。
	身近な話題に関する短めな記事，レポート，資料の概要を理解することができる。	身近な話題や関心のある話題について簡単な語句や文を用いて，自分の意見やその理由を短く述べるができる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	平易な英語で書かれたごく短い英文を読み，イラストや写真も参考にしながら概要を理解できる。	身近な話題などについて基本的な表現を用いて簡単な質疑応答ができる。	分からないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	短い簡単な会話や説明文の意味を理解することができる。	身近で具体的な事物を表す単語の意味を理解し，発音できるようにする。	授業を受けるための準備ができています。
評価方法	定期考査・小テストなど	定期考査・パフォーマンステストなど	授業中の取り組み・課題提出など

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	L1 Enjoy Your Journey! L2 Curry Travels around the World L3 School Uniforms
2 学期	L4 Eco-Tour on Yakushima L5 Bailey the Facility Dog L6 Communication without Words L7 Dear World : Bana's War
3 学期	L8 The Best Education to Everyone, Everywhere OL 1 Space Elevator OL 2 Friendship Over Time

何で学ぶか(教材)

LANDMARK Fit English Communication I 必携英単語 LEAP Basic

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習 ICTを活用した教材

科目名	情報Ⅰ	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	志学・特進 コース	探究
目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
	A わかる コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけている。	問題の発見・解決に向けて情報収集と情報技術を身につけている。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる コンピュータやデータの活用について理解している。	身近な問題について、問題解決のプロセスを当てはめて考えることができる。	できないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する 情報やメディアの特性を理解している。	自分の問題を解決するためのプログラムを考えることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法	授業 定期考査	授業 定期考査 提出物	授業 定期考査 提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	情報で問題を解決する 情報を伝える
2 学期	コンピュータを活用する データを活用する
3 学期	活動して提案する

何で学ぶか(教材)

東京書籍 Step Forward!
東京書籍 ニューステップアップ

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

科目名	家庭基礎	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース 体育	
目標	人の一生と家族・福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，家庭生活の充実向上を図る課題解決能力と実践的な態度を育て，社会の変化に合わせてしなやかに成長し続け，社会人基礎力を身につける。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える 家庭生活の意義や役割を理解し，家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけて，実践することができる。	家庭や地域社会の生活について自身の役割を理解し，課題解決を目指して思考を深め，適切に判断し工夫し創造する能力を身につけ，表現することができる。	家庭や地域社会の生活について関心を持ち，その向上を目指して他者と協同し，課題解決に向け主体的に取り組もうとするとともに，実践的な態度を身につけている。
	A わかる 家庭生活の意義や役割を理解し，家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域社会の生活について自身の役割を理解し，課題を見出すことができ，適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域社会の生活について関心を持ち，他者と協同し課題解決に向け主体的に取り組もうとする。
	B できる 家庭生活の意義や役割を理解し，基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域社会の生活について課題を見出すことができる。適切に判断する能力を身につけている。	できないことに挑戦し，他者と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する 家庭生活の基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域社会の生活について課題を考えることができる。	授業を受けるための準備ができています。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	人とかかわって生きる 家族分野 保育分野 社会福祉分野
2 学期	生活をつくる 食分野 被服分野 住居分野
3 学期	消費者として自立する 消費行動 経済分野

何で学ぶか(教材)

図説家庭基礎 (実教出版)
図説家庭基礎学習ノート (実教出版)
2023生活学Navi (実教出版)
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
実習

科目名	体育	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し，より大きな力を発揮するために，集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに，自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，また食育，栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。（教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など）
評価方法		授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	体づくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2 学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3 学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館 新高等保健体育教科書
大修館 新高等保健体育ノート
ICT機器

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習
実戦練習（ゲーム）
チーム練習・戦略会議
iPadによる分析

科目名	保健	授業時数	週 1 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	体育
目 標	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。また、日常生活における自らの課題を発見し、目標を立てて学ぶ力を身に付ける。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	保健に関するさまざまな分野から課題を発見し、自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え、実行することができる。
	A わかる	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であることがわかる。	健康についての思考を深め、事象を複合的に考察することができる。	日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考えることができる。
	B できる	保健に関する基礎的な知識やヘルスプロモーションの理念を理解できる。	適切な用語・記号を使い、分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり、他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	保健に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し、用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	第 1 章 現代社会と健康 1 日本における健康課題の変遷～ 8 生活習慣病の予防と回復
2 学期	第 1 章 現代社会と健康 9 身体活動・運動と健康～ 17 精神疾患への対応
3 学期	第 2 章 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因～ 6 日常的な応急手当

何で学ぶか(教材)

大修館 新高等保健体育教科書 大修館 新高等保健体育ノート プリント
--

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習・ペア学習 ICTを活用した調べ学習

科目名	スポーツⅥ	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	特進

目標 初動負荷マシンを利用したウエイトトレーニングの実践を通して、柔軟かつ弾力性のある筋肉を獲得できるようにする。また、身体の調子を整え、怪我の予防を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に故障しない身体作りができる能力を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	初動負荷理論を理解し、それに基づいた動作・リズムをマシンで表現することができる。	柔軟な身体を獲得し、さらにその過程を論理的に簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	初動負荷トレーニングを活かし、問題解決の過程を振り返り、考察し、自ら評価・改善しようとするすることができる。
	A わかる	関節可動域が十分に獲得されたマシン動作を身に付け、どの筋肉・関節と連動しているかを理解している。	自分の身体の状況を理解し、マシンの効果・部位を解説することができる。	できないことに挑戦し、他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	弛緩→伸張→短縮のリズムが崩れず、応用したポジションでのマシン動作を身に付けている。	初動負荷理論を理解し、用語や単語を適切に用いることができる。	できないところを自ら人に聞いたり、他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的なマシンの機能を理解し、動作を身に付けている。	柔軟な身体を求め、機能解剖や身体のしくみなどを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	初動負荷理論 全身の筋肉・関節 マシン動作・リズム・ポジション
2 学期	初動負荷理論 各筋肉の機能・起始・停止 マシン動作・リズム・ポジション
3 学期	初動負荷理論 各関節の機能 マシン動作・リズム・ポジション

何で学ぶか(教材)

初動負荷マシン 機能解剖学プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義 ・グループトレーニング ・映像学習（動画）

科目名	書道 I	授業時数	週 2 単位	1 学年
目 標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図る。表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価	漢字・仮名の書の古典の表現に基づく、基礎的な用筆・運筆の技能を身につけ表している。	書のよさや、美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	書の創造的活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
基 礎	漢字・仮名の書の古典の、書風と用筆・運筆の関係を理解している。	書のよさや、美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想している。	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもとうとしている。
基 礎	漢字と仮名の調和した表現の基礎的な技能を身につけ表している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化についてその価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもち、書のよさや美しさを理解しようとしている。
準	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について理解している。	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解している。	日常生活の書の効用や、書の伝統と文化について関心をもとうとしている。
評価方法	提出作品 学習シート 考査	提出作品 学習シート	提出作品 学習シート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	- 漢字仮名交じりの書の学習Ⅰ - 漢字の書の学習(楷書)「孔子廟堂碑」 - 漢字の書の学習(楷書)「九成宮醴泉銘」 - 漢字の書の学習(楷書)「雁塔聖教序」
2 学期	- 漢字仮名交じりの書の学習Ⅱ - 漢字の書の学習(楷書)「顔氏家廟碑」 - 漢字の書の学習(楷書)「牛橛造像記」 - 篆刻の学習 - 漢字の書の学習(行書)「風信帖」
3 学期	- 漢字の書の学習(行書)「争坐位文稿」 - 仮名の書の学習 - 漢字仮名交じりの書の学習Ⅲ - 学年末考査

何で学ぶか(教材)

教育図書『書Ⅰ』 同 プライマリーブック 補助プリント 学習シート パワーポイント等の映像資料

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉授業(講義・実技) グループ学習(相互批評等) 鑑賞学習

科目名	美術Ⅰ	授業時数	週 2 単位	1 学年
		コース	スポーツ科学 コース	
目標	幅広い美術活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	S 使える	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	表現：自己のイメージを表現することができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝え、他者の見方を受け入れられ、さらに思考することができる。	全ての学習を通して積極的であり、美術表現を工夫することができる。
	A わかる	対象や事象を捉える造形的な視点と意図に応じて表現方法を創意工夫する関係を理解している。	表現：形、材質などの表現ができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝え、他者の見方を受け入れられる。	個人制作及びグループ学習に積極的に取り組むことができる。
	B できる	対象や事象を捉える造形的な視点の基礎的な表現技法を身につけて表している。	表現：構図を考え表現することができる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持ち、他者に伝えられる。	表現・鑑賞の学習に積極的に取り組むことができる。
	C する	日常生活の美術の効用や美術の歴史、文化について理解することができる。	表現：関心を持ち表現することに喜びを感じる。／鑑賞：作品鑑賞をして自分の意見を持つことができる。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法	提出作品 ワークシート 考査	授業 提出作品 ワークシート 考査	授業 ワークシート 考査	

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学習内容
1 学期	オリエンテーション なりきり自己紹介 色彩構成／グループワーク 対話による美術作品鑑賞
2 学期	ビジュアルデザイン表現 写真表現 映像表現 対話による美術作品鑑賞
3 学期	表現技法 表現やデザインを用いた作品制作 学年末考査 対話による美術作品鑑賞

何で学ぶか(教材)

高校生の美術 1（日本文教出版）／ワークシート／パワーポイントなどの映像資料 副教材：スケッチブック、絵具（中学校で使用したもので良い）／それぞれの題材や活動で必要な材料は学期ごとに購入します。
--

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉授業（講義・実技） グループ学習（作品制作・鑑賞など） 鑑賞学習 ※chromebookを用いたICT授業も行いますので必要に応じて持参してください。
--

科目名		音楽Ⅰ	授業時数	週 2 単位	1 学年
			コース	スポーツ科学 コース	
目標	・音楽に対する興味・関心を持ち、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。 ・音楽・スポーツ共通の重要事項であるリズム感を身につける。				

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	読譜能力を身につけ出来る限り楽譜に階名を書かなくても歌唱・リコーダーの演奏ができる。	楽曲のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。
基	腹式呼吸やリコーダーの運指を覚え、歌唱・リコーダーの演奏ができる。	リズムとハーモニーを感じながら曲想に合った表現ができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。
準	単旋律の歌唱とリコーダーの基礎的な奏法を身につけることができる。	メロディを流れるようにリズムカルに演奏することができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
評価方法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ、何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	音楽理論の基礎「五線」「音符と休符」 歌唱「校歌」 アルトリコーダー「主は冷たい土の中に」 実技テスト
2 学期	音楽理論の基礎「音名」「階名」 歌唱「翼をください」 アルトリコーダー「エーデルワイス」 実技テスト
3 学期	音楽理論の基礎「反復記号」「楽語」 歌唱「少年時代」 アルトリコーダー「魔弾の射手」 学年末考査・実技テスト

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSA I」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア練習・グループ練習

科目名		選択スポーツ	授業時数	週 2 単位	全 学年
			コース	スポーツ科学 コース	
目標	各運動の合理的な実践を通して、運動能力を高めるようにする。また、身体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育む。				

どのような力を， どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	S 使える	実践の中で，技術や戦術を用いて戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中の状況を適切に判断し，プレーをしたり指示を出したりすることができる。	各競技での経験を生かし，問題解決の過程を振り返り，考察し，自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし，集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分のポジションを理解し，より大きな力を発揮するために，集団でプレーすることができる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	専門体力を有し，競技に応じた技術を身につけている。	専門競技に必要な技術を理解し，またその競技のルール等を熟知している。	できないところを自ら人に聞いたり，他の人が困っている時に一緒に考察することができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し，基礎体力を身につけている。	健康健全な身体を求め，機能解剖やトレーニング方法，食育，または栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業	授業	授業

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学期	基礎演習
2 学期	集団練習・ケース練習
3 学期	実践練習

何で学ぶか(教材)

各競技による

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
競技ごとの練習